

大阪高体連サッカー部 公 式 記 録	会場責任者	主審サイン
	三宅 愛	相良 和樹

戦評者氏名	(都 浩 司)	勤務先又は所属	(茨 木 高 校)
<p>両チーム共に1-4-4-2のシステムで試合開始。序盤攻勢に出たのは桐蔭。両ワイドのスピードある攻撃と、長身⑩林の高さを生かした攻撃で追手門ゴールに迫る。前半早々6分に先制点を奪い勢いに乗る。一方の追手門はパスを繋ぎコンビネーションで攻撃を試みるが、桐蔭の激しいプレスと攻から守の早い切り替えにゴール前まで行くことができない。だが、飲水タイムを挟んだ迎りから縦にパスが繋がり始めコーナーキックから同点とする。その後は拮抗した展開だったが、桐蔭はアバウトなボールをゴール前に入れたとそれをゴールに押し込み3分に勝ち越す。後半、追手門は右サイドの⑯山下、トップの⑥草水にボールが集まり出し、チャンスを作っていく。桐蔭に押し込まれるシーンもあったが6分に同点とする。桐蔭は合計シュート数では大きく上回ったが、効果的な攻撃が出来ず、後半は追加点を奪えないままに2-2の引き分けで試合終了となった。順位決定の為のPKでは桐蔭に軍配があがった。追手門は押し込まれてはいたが、集中力の高いバック陣、攻撃は楔を入れ、複数が絡む攻撃でチャンスを作っていた。桐蔭は力強い攻撃は脅威だが、幅を使い、中央を崩すなど工夫があれば多くの得点を奪えただろう。</p>			